

(東京都にお住まいの方向け)

患者さんご家族へのご案内

～入院中から考える保育・教育・就労のこと～



はじめに・・・

ご病気のこと、治療についてのお話を聞いて、お気持ちがとても混乱なさっていると思います。そうした皆様に、ご相談の窓口があることを知っていただきたく、このリーフレットを作成いたしました。

ご入院に伴い、ご本人にもご家族のみなさんにも様々なご不安やストレス、ご心配が生じることと思います。

本編では、特に治療期間中及び治療後の教育、そして将来の就労に関する情報についての情報をご紹介しています。今は急には必要のない情報かもしれませんが、その時々に注意すると良い点や個々の事例など非常に重要な内容を含んでいます。ほとんどの場合、患者さん毎にケースバイケースの対応が必要になりますので、是非これらを参考にしていただき、担当の相談員と最善の方策をご相談ください。それ以外のご心配事も、どうぞご遠慮無く相談員にご相談ください。

また、**小児がん拠点病院のがん相談支援センター**や**がん相談ホットライン**（17ページ参照）は、どなたでもご利用いただけます。

安心して治療に専念するために、心の重荷を少しでも降ろしていただけるようご活用いただければ幸いです。

東京都小児・AYA 世代がん診療連携協議会 会長 山岸 敬幸
(東京都立小児総合医療センター 院長)
相談情報部会長 松本 公一
(国立成育医療研究センター 小児がんセンター長)

※本リーフレットに掲載されている情報は**令和7年1月時点の情報**です。
最新の情報は担当窓口にご確認ください。

目次

	ページ
はじめに・・・	1
あなたの病院には相談窓口があります	3
入院中から必要となる学びのあれこれ	4
まわりにはたくさんのサポーターがいます	6
入院中の生活について	7
退院にむけて・退院後の生活	8
仕事をすることについて	10
コラム～こんな事例もありました～	12
相談窓口	14
東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会について	16
あなたのお問い合わせ先	18
参考になる資料	19

あなたの病院には相談窓口があります



当院の相談窓口では、病気に伴って生じる生活上の不安、経済的なこと、入院生活や退院後の生活に関する心配事などについてのご相談に応じています。

※相談についての秘密は厳守いたします。

入院中から必要となる学びのあれこれ

子どもにとって、保育園・幼稚園、学校などの教育の場は特別な場所です。

「勉強」だけでなく、お友達と遊んだり、けんかをしたり、給食を食べたり、新しいことにチャレンジしたり、わくわくするところです。子どもが安心して学べる場所と一緒に考えていきましょう！

**保育園
幼稚園**

保育園・幼稚園に行ける?
入園式は?卒園式は?
就学はどうなるの?



小学校

入学式は?
自分の席はあるのかな?
クラス替えは?
卒業式は?



中学校

入学式は?
定期テストが心配・・
部活・私の居場所は?
治療中でも進学できるの?受験が心配..
卒業式は?



高等学校

入学式は?
単位の取得は?進級できるのかな・・
卒業式は?



**進学
就職**

受験?進路どうしよう・・
働けるかな?

1 入園・入学・進級の時どうしたら良いの？

*誰に相談したら良いの？

*入院中でも相談できる？

2 入院中はどうしたら良いの？

*病院の中には学校はある？

*友達と繋がってみたいな

*おたよりの交流できるかな？

*学校・担任の先生とのやりとりは？

*学校にはどこまで伝えたら良いの？

*お友達に何て伝えたら良いかな？

*学校に行ける時に行っていいの？

*きょうだいのケアは？

3 どうやって保育園・幼稚園、学校に戻るの？

*戻る前に学校の先生と病院の先生で話をしてもらえるのかな？

*お友達にどうやって伝えたらよいかな？

*容姿のことが気になる・・・かつらや帽子は被っていてもいいの？

*保育園・幼稚園、学校にはいつから行っていいの？



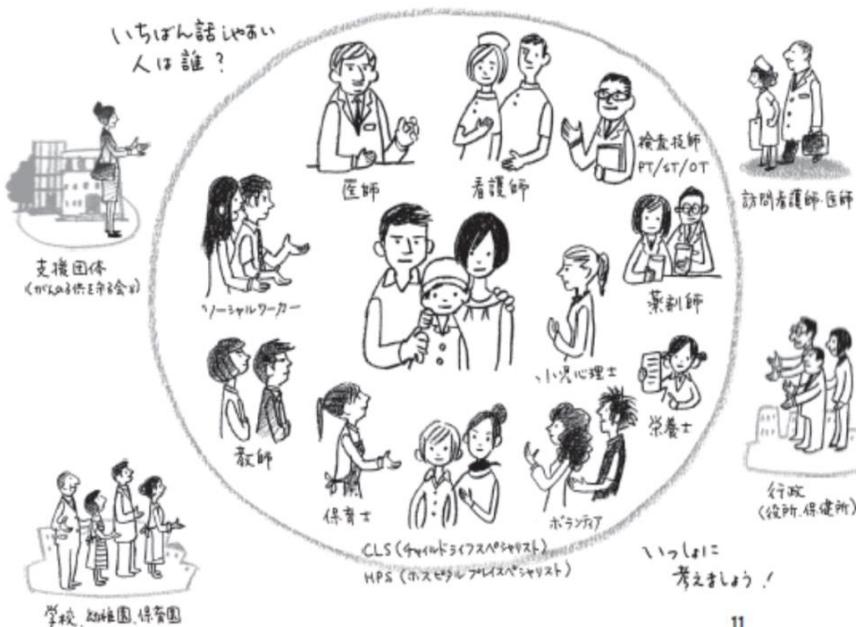
まわりにはたくさんのサポーターがいます

患者さんやご家族の入院や治療、そして保育・教育を含めた生活を支えるチームには、医師、看護師、病棟保育士、院内学級や訪問教育の教員、医療ソーシャルワーカー、心理士、チャイルド・ライフ・スペシャリストなど、たくさんのサポーターがいます（病院によって設置されている職種は異なりますので、相談員にご確認ください）。

病院の中だけでなく、もとの保育園や幼稚園、学校、患者会などのサポートを受けることもできます。

患者さんやご家族もこのチームのメンバーです。今、そして将来に関する困りごとや心配なこと、希望することを積極的に表現して、チームのメンバーといっしょに考えていきましょう。

患者さんと家族を支えるチーム



【出典】公益財団法人がんの子どもを守る会

「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」p.11 (2010)

入院中の生活について

1 退院後の生活を考えた入院生活を送りましょう

病気のことがわかった直後は、考えなければならないことや不安なことばかりで、たといへんな時期だと思います。私たちは患者さんやご家族がこの困難を乗り越えて、日常の生活にまた戻っていけるようになること、さらに、健やかに成人され、家庭生活や就業などの社会活動へ積極的に参加できるようになることを願っています。

そのためには、病気の治療に専念することはもちろんですが、退院した後の生活を考えて、入院生活を送ることが大事です。

2 入院中も保育や教育を継続できます

入院中も患者さんの発達・発育を促す働きかけや、教育を継続する支援は行われます。小児の入院病棟を持つ病院には病棟保育士などが配置されていたり、学校に通っている患者さんのために院内学級や訪問教育が設置されています。

学校に通っている患者さんが入院中に院内学級や訪問教育で教育を受ける場合は、通っていたもとの学校と連絡を取り、転籍の手続きを行います。高校や私立校の場合には、学校により異なりますので、相談が必要です。

通っていた学校の授業をオンラインで受けができる場合もありますので、まずは学校にご相談下さい。

3 退院後の生活のためにやっておくとよいこと

退院後はもとの保育園・幼稚園、学校へ戻ることになります。治療の経過や今の患者さんの様子などの情報を共有してもらえるように、入院時からもとの保育園・幼稚園や学校と連絡を取っていくことが大切です。

転籍の手続、入院中の学校との連携などのお手伝いをいたします。成長・発達についてのご心配・復学後の学校生活についてのご心配などへの対応、就労時期には、就労支援プログラムを提供している病院もあります。

相談の窓口や担当者は病院により多少異なりますので、相談員にご確認ください。

退院にむけて・退院後の生活

治療が落ち着いてきたら、もとの保育園・幼稚園、学校に戻る準備を始めましょう。学校に戻る準備？ときいてもピンとこないかもしれません。その場合は、どのような情報をもとの学校に伝えていったらよいのか、病院にいる相談員と一緒に確認をするとよいかもしれません。

必ずではありませんが、可能であれば、病院（医師、看護師、相談員など）、院内学級・訪問教育、もとの保育園・幼稚園（園長先生など）、学校（校長、担任、保健室の先生など）と一緒に話し合う機会をもつとよいでしょう。顔を見合わせながら情報共有ができる場をもつことで、学校に戻る際の不安や心配、配慮するべき点などがより学校に伝わりやすくなるでしょう。

退院後、学校に戻ってから新たにわかる問題があるかもしれません。それはすぐにわかることもありますし、何年も経って初めてわかることもあります。病院にはいつも相談員がいます。相談員は退院後の生活も気にしているので、気軽に声をかけてみてください。



保育園・幼稚園、学校と話し合う際のポイント



<患者さん・ご家族と医療関係者との間で事前に確認しておくこと>

- ご家族が保育園・幼稚園、学校に現状をどのように説明しているか
- 復園、復学するにあたり、病名や病気のことをどのように伝えたいと考えているか
- 同じ保育園・幼稚園、学校にきょうだいが在籍している場合、きょうだいはどのように伝えられているか
- 医療関係者から伝えてほしいと思うことはあるか
- 容姿の変化、身体の不自由さがある場合、復園、復学するのに心配なことはあるか
- 話し合いに関して、不安に思うこと、疑問点などもあれば確認しておく

<話し合いの際に確認すること>

- 病気の説明（病名、治療内容等の説明の仕方は、事前にご家族と打ち合わせをしたとおりに行う）
- 保育園・幼稚園、学校生活において注意すべきこと
- 具合が悪くなった時、けがをした時の対応
- 感染症が発生した場合の対応
- 復園、復学のペース（病気や治療内容によって異なるため、主治医から理想的な通学ペースを伝えてもらう）
- 体育の授業や運動会への参加（場合によっては内容を確認する）
- 給食（食事）において気をつけること
- 課外授業について（近いうちに予定されている行事についての確認）
- 環境面で配慮が必要な場合は、対応してもらえる範囲を詳細に確認しておく
→介助員が必要な場合は、話し合いの前に要望を伝えておくとよい。話し合いの場では介助員にお願いしたいことを具体的に伝える。
- 保育園・幼稚園、学校の教員内、クラスメイト、保護者への説明の仕方
- 容姿の変化がある場合、そのことに関する周囲への説明の仕方

仕事をすることについて

1 仕事をすること

小児がん経験者の多くが一般の方と同じように、仕事をしています。しかし、その反面、晚期合併症や後遺症で仕事との両立に悩まれている方もいます。一言で「仕事をする」といっても、仕事の内容や働き方（正社員、アルバイト、自営業、福祉の就労等）により、様々な選択肢があります。また、治療状況や職場の対応などによっても選択肢は異なります。仕事を長く続けるには、一人一人にあった方法を見つけることが大切です。一人で悩まず、同じ経験をした仲間や専門家に相談することも有用です。

2 学生時代からできること

興味があることや得意なこと、身体や疾病の状況、雇用情勢など、様々なことが絡み合って仕事は決まります。「自分を知る」こと、「なぜ働きたいのか」など働くことのイメージを学生時代から始めてみましょう。

例えば…

①自分の得意なことや苦手なことなどを考えてみましょう

⇒好きなこと・嫌いなこと、得意なこと・苦手なこと、学生時代に頑張ったこと、資格などを書き出してみましょう

②今後の健康管理のために自分の病気のことを知っておきましょう

⇒病名や治療内容、起こりうる晚期合併症の内容や通院の頻度に加え、仕事をする上で配慮が必要なことは何か、自分で工夫できることは何かを主治医や看護師、相談員等、相談しやすい医療関係者に相談しながら整理してみましょう。施設によつては移行期外来など長期フォローアップの一環として、今後の健康管理の相談に対応する窓口ができていますので、活用するのもいいでしょう。

③どのような仕事があるのか調べてみましょう

⇒職業体験を聞く、仕事に関する記事を書籍・インターネット等で調べてみましょう

④ついてみたい仕事、興味がある業種の求人があるか調べてみましょう

⇒ハローワークでは求人情報を得ることができます。また、適性検査や相談など自己分析の支援をしています。障害者手帳の有無に関わらず障害者専門援助部門や、一部のハローワークには難病患者就労コーディネーターがあり、専門の知識をもつ専門スタッフが相談に応じてくれます。

また、地域の療育センターや特別支援学校の高等部などでは、生活訓練・指導や職場実習推進事業などもあり、将来を見据えたサービスを受けることができますので、利用や進学の選択肢のひとつとなります。

3 就職活動をするとき

就職活動の際に、病気についてどの程度伝えるか、多くの方が迷います。自身の健康状態や、通院頻度、考え方によっても伝える内容は異なります。また、自身のことを知ってもらうこととともに、就職後、職場にどのように貢献できるのかなど病気に関する以外も一緒に伝えるなど、伝え方も重要です。迷った際は、周囲や相談員、専門機関へ相談し、アドバイスをもらいましょう。同じ病気を経験した仲間の経験を聞いてみるために、小児がん経験者の会などに参加するのもいいかもしれません。小児がん経験者の会の情報は相談員に尋ねてください。

どうしても一歩が踏み出せないという時もあるでしょう。小児がんに特化しているものではありませんが、各地域にある「若者自立支援センター」や「若者自立ネットワーク」などで、能力養成や職業意識の啓発、社会適応支援などを目的に、相談事業や職場体験、職業訓練などが行われていますので、訪ねてみるのもいいかもしれません。

4 福祉的配慮による就職について

小児がん経験者の中には病気や障害の状況により、障害者手帳を取得し、福祉的な配慮を受けながら就労をする方もいます。障害者手帳の取得について迷う方もいらっしゃいますが、障害者手帳を取得することで利用できる公的なサービスもあり、選択肢が広がる場合もあります。対象となる方は、取得や利用についても検討してみてください。

コラム～こんな事例もありました～

復学時の心配ごと

治療を終え、髪の毛が抜けてしまい少しふくらしたAちゃん。退院が近づいているのに『友達にどんなふうにみられるのかな』と心配な顔。

退院前には病院と学校で復学に向けて話し合う場を持ちました。

そこでAちゃんの様子を目にした担任の先生は、後日、クラスのみんなからの『待ってるよ』というメッセージカード送りました。それを見たAちゃんは、少しだけ前に進む勇気ができました。

退院後の外来でAちゃんに『学校はどう?』と尋ねると、『うん、ぼちぼちね』とニヤリと笑いました。

私立学校との協議

Bくんは入院中に高校受験を経験しました。別室受験など配慮していただけ、無事合格しましたが、入院生活は続くので今度は単位が取得できるか心配でした。

高校とやりとりの結果、進級・卒業に関する「別室登校の認定」という規定が準用されました。学習課題や定期試験は郵送してもらい、訪問学級の教室やベッドサイドで学習しました。その時間を記録し高校の授業時数に振り替え、Bくんは無事単位を取得することができました。

入院中の受験

Cくんは中学3年生の途中で病気がわかり、入院しました。

治療当初から主治医はCくんにも病気の説明をし、治癒を最優先して治療しつつも、受験についてもよく相談しようと話していました。治療によりつらい副作用が出てきたCくんより「受験にあわせて体調を整えたい」と希望があり、治療内容の調整の選択肢をCくんに提示し、受験の日程にあわせて治療を進め、無事に高校に合格しました。高校入学時は入院中でしたが、病院内の学校に転籍し、退院後に編入試験を受ける形で希望通り高校への復学ができました。

転籍できた高校生

公立高校に通っていたDくんが、治療のため長期入院となりました。

入院後、保護者の方と高校の担任の先生、校長先生と病院スタッフで話し合いを行い、訪問教育が受けられる学校に転籍、訪問教育の出席日数を元の高校の出席に変換できることになりました。元の高校の在学証明書や、主治医の診察記録等の必要書類を揃え転籍の申請を行ったのち、体調や治療スケジュールに合わせながら、Dくんは週に3日訪問教育を受けられることになりました。

転籍できたこと、また戻れる学校があることが治療への励みになりました。

もとの学校との交流

長期入院しているEさんの前籍校の教員とクラスメイトが合唱コンクールの帰りに病院へ寄ってくれました。中学生は病棟に入れない規則でしたが、特別に開放された病棟の食堂で、コンクールで歌った曲を披露してくれました。

酸素吸入しながらEさんもその輪の中で歌っていました。爽やかな歌声が、病棟全体に広がって、みんなの心の琴線に触れました。早くあの輪の中に帰してあげたいと強く感じた瞬間でした。

復学へ向けた対応

治療の目途がつき、退院日も具体的になってきたFくん。学校の担任の先生、校長先生と復学に向けての話し合いの場で、保護者から階段を自力で上ることが難しいことが伝えられました。教室は3階。Fくんも保護者も不安に思っていたのですが、校長先生や担任の先生の取り計らいで、その年から、Fくんの学年は1階の教室に移動することが決定し、大げさな配慮ではなく自然の流れでFくんが復学できる環境が整えられていきました。

気がかりだった他の学年の生徒やPTAも、保護者とFくんの説明をすることで理解を得られ、不満を言う人はいませんでした。

Fくんが卒業してからも、その学年の教室は1階のままのようです。



相談窓口

1 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

東京都では、慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療育を必要とするお子さんの健全育成や自立の促進を図るため、本人やご家族からの相談に応じ、必要な情報提供等を行う「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」を実施しています。疾病を抱えたお子さんとご家族にとって一番良いのは何かと一緒に考えます。お気軽にご相談ください。

◆相談支援

・電話相談

医師、保健師、社会福祉士などの専門職の相談員がお話をうかがいます。

医療や教育、福祉に関すること、また親の会のご紹介や同じ病気のお友だち紹介を行います。

月曜日から金曜日まで（ただし祝日を除く）

午前 11 時から午後 3 時まで ☎03-5840-5973

・ピアサポート

ちょっとひり疲れたな…

一人ぼっちで心細いな…

そんな時、慢性疾病や障害のある子どもを育てた経験のある「ピアソポーター」が、あなたの心に寄り添います。

国立研究開発法人国立成育医療研究センター

（火）（木）（金）午前 10 時から午後 4 時まで

東京都立小児総合医療センター

（火）（木）（金）午前 10 時から午後 4 時まで

慶應義塾大学病院

実施日不定期 午前 10 時から午後 3 時まで

（実施日は☎03-6801-6330 までお問い合わせください）

◆小児慢性特定疾病児童等自立支援員による支援

病気のこと、学校のこと、将来のことなど、様々な問題を一緒に考えていきます。子どもたちとご家族の状況や希望をふまえ、各種機関との連絡調整や情報提供をいたします。

月曜日から金曜日まで（ただし祝日を除く）

午前 10 時から午後 6 時まで ☎03-6801-6330

◆遊びのボランティア（プレイリーダー）

長期入院中や在宅療養中の子どもたちと、遊びを通じて楽しく過ごします。

病気や治療に対する不安を軽くして、日々の生活が楽しくなるように、遊びのボランティアが病棟やご自宅へ訪問します。

申込受付

月曜日から金曜日まで（ただし祝日を除く）

午前 10 時から午後 6 時まで ☎03-6801-6330

この事業は、認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワークが東京都より委託を受けて実施しています。

認定 NPO 法人 難病のこども支援全国ネットワーク

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-15-4 文京尚学ビル

TEL 03-5840-5972 FAX 03-5840-5974

ganbare@nanbyonet.or.jp

<http://www.nanbyonet.or.jp>

（難病のこども支援全国ネットワークでは他にも様々な取組みを実施しております。詳しくは、ホームページをご覧いただくな、難病のこども支援全国ネットワーク事務局までお問い合わせください。）



東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会について

東京都では「東京都内の小児がん拠点病院」及び「東京都小児がん診療病院」による「東京都小児・AYA世代がん診療連携ネットワーク」を構築しています。また、ネットワーク参画病院を中心とする会議体として、「東京都小児・AYA 世代がん診療連携協議会」を設置・運営しています。

東京都小児がん診療病院

東京都内には小児がん拠点病院以外にも小児がんに関して高度な診療提供体制を有する医療機関が存在しているため、東京都では以下の 13 医療機関を「東京都小児がん診療病院」として認定しております。

施設名	所在地	電話番号
東京慈恵会医科大学附属病院	〒105-8471 港区西新橋3-19-18	03-5400-1232 (直通)
順天堂大学医学部附属順天堂医院	〒113-8431 文京区本郷3-1-3	03-3813-3111 (代表)
東京科学大学病院	〒113-8519 文京区湯島1-5-45	03-5803-4008 (直通)
東京大学医学部附属病院	〒113-8655 文京区本郷7-3-1	03-3815-5411 (代表)
日本医科大学付属病院	〒113-8603 文京区千駄木1-1-5	03-3822-2131 (代表)
聖路加国際病院	〒104-8560 中央区明石町9-1 ※電話番号は どちらも直通	03-5550-7098 AYAなんでも相談 03-6264-2418 妊娠とがんホットライン
国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	〒104-0045 中央区築地5-1-1	03-3542-2511 (代表)
東邦大学医療センター大森病院	〒143-8541 大田区大森西6-11-1	03-3762-4151 (代表)
慶應義塾大学病院	〒160-8582 新宿区信濃町35	03-5363-3285 (直通)
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター	〒162-8655 新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181 (代表)
日本大学医学部附属板橋病院	〒173-8610 板橋区大谷口上町30-1	03-3972-0011 (直通)
帝京大学医学部附属病院	〒173-8606 板橋区加賀2-11-1	03-3964-3956 (直通)
杏林大学医学部付属病院	〒181-8611 三鷹市新川6-20-2	0422-47-5511 (代表)

東京都内の小児がん拠点病院

国が指定した小児がん拠点病院が全国に 15 あります。東京都内には、国立成育医療研究センターと東京都立小児総合医療センターの2病院が指定されています。**他病院に**おかかりの方でも、**小児がんについてのご相談をお受けいたします。**(秘密は厳守いたします。)

施設名	所在地	電話番号
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 小児がん相談窓口	〒157-8535 世田谷区大蔵2-10-1 小児がん相談支援センター (平日8:30~17:00)	03-3416-0181 (代表)
東京都立小児総合医療センター 小児がん相談窓口	〒183-8561 府中市武蔵台2-8-29 小児がん相談ホットライン (平日10:00~16:00)	042-300-5111 (代表)
AYA世代がん相談 情報センター	AYA世代がん相談ホットライン (平日9:00~17:00)	042-312-8117 (直通)

※ホットラインは聖路加国際病院にもあります。(16 ページ参照)

関係団体

団体名	所在地	電話番号
公益社団法人 東京都医師会	〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5	03-3294-8821 (代表)
公益財団法人 がんの子どもを守る会 相談専用電話 (平日 10:00~17:00)	〒111-0053 台東区浅草橋1-3-12	03-5825-6311 (代表) 03-5825-6312 (直通)

診療情報等の公開について

東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会を構成する医療機関の情報を、東京都保健医療局のホームページ「東京都がんポータルサイト」で公開しています。各医療機関の基本情報や診療実績等を閲覧することができます。

※ [東京都がんポータルサイト](#)



※ [小児がん診療施設 情報公開 | 東京都がんポータルサイト](#)



あなたのお問い合わせ先

様

担当相談員

<窓口>

<連絡先>

<相談時間>



参考になる資料

①「病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～」

(作成：全国特別支援学校病弱教育校長会、編集協力：国立特別支援教育総合研究所・病弱班)

[病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～](#)（国立特別支援教育総合研究所ホームページ）

学校の先生方を対象とした「病気の子どもの理解のために」、病類別の支援冊子「白血病」や「脳腫瘍」についてダウンロード可能です。

②「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」

(作成：公益財団法人がんの子どもを守る会)

小児がんの子どもたちの教育環境がより良いものになることを願い、多くの関係者の意見を取り入れたガイドラインです。小児がんのみならず多くの入院児にもあてはまり、病気療養中の子どもに携わる多くの関係者に活用されています。

③「小児がん経験者のためのガイドライン－よりよい生活をめざして－」

「小児がん経験者のためのハンドブック」

(作成：公益財団法人がんの子どもを守る会)

主として小児がん経験者（long-term survivor）を対象とし、加えて家族、医療関係者、教育関係者、将来小児がん医療に携わることを目指している学生などにも役立つように作成したものです。また、大人になりゆく小児がん経験者にとって有用な情報をまとめた冊子です。

②③の他、[がんの子どもを守る会](#)ホームページから疾患別の冊子等の資料と共にダウンロード可能です。また、同会に請求をすれば無料で送付してもらえます。

MEMO



東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会 相談情報部会 リーフレット作成 ワーキンググループ（初版作成時点）

（相談情報部会長）

松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長

鈴木 彩 国立成育医療研究センター ソーシャルワーカー

佐藤 杏 国立成育医療研究センター ソーシャルワーカー

石井 文 東京都立小児総合医療センター ソーシャルワーカー

鳥入さゆり 東京医科歯科大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー

矢野 聰美 聖路加国際病院 ソーシャルワーカー

野村 浩明 日本大学医学部附属板橋病院 ソーシャルワーカー

樋口 明子 がんの子どもを守る会 ソーシャルワーカー

吉野 美緒 日本医科大学付属病院 臨床心理士

岩崎 美和 東京大学医学部附属病院 小児看護専門看護師

（オブザーバー）

中村 明子 東京女子医科大学病院 ソーシャルワーカー

香月 雅子 難病のこども支援全国ネットワーク 自立支援員

赤津 公子 東京都立鹿本学園 教諭

編集 東京都立小児総合医療センター

血液・腫瘍科 湯坐 有希、事務局医事課

患者さんご家族へのご案内～入院中から考える保育・教育・就労のこと～

初 版	平成 29 年 2 月
第 2 版	令和 7 年 12 月
編 集	東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会
発 行	東京都保健医療局医療政策部医療政策課
	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
	03 (5320) 4389 ダイヤルイン
イラスト協力	WANPUG・AMANA IMAGES・いらすとや
事 務 局	東京都立小児総合医療センター事務局医事課
登 録 番 号	(7) 155

